

審査会会長からのコメント

新型コロナウイルスの影響で、今年度の地域まちづくり活動助成金の募集は実施が危ぶまれましたが、申請時期や審査の日程がずれ込みはしたものの、何とか募集を行うことができました。

このような大変な状況の中でも地道なまちづくり活動の実践を継続されている様子に、審査会委員一同感動しました。もちろん、活動内容の性質から活動をいったん休止するという苦渋の決断に至ったグループも多かったと推察します。その勇氣ある判断にも私たちは深く共感しています。

もしかしたら、募集をしても活動自粛で申請がほとんど来ないのではないかという心配もしましたが、8つの申請をいただくことができました。とはいえ、これは例年の四分の一ほどの申請数です。

いただいた申請は、それぞれ万全の新型コロナウイルス対策を前提に事業計画を立てられており、予定されていた半分以下の収容人数での集会や、オンラインでの開催、消毒剤等の用意など、本当に厳しい計画を余儀なくされている様子が見てとれました。

しかし、新型コロナウイルス対策は万全を期されねばなりませんし、助成金は公金ですので、私たち審査会では申請書類のチェックとプレゼンテーションでの質疑応答に加え、市役所内の関係部署や集会施設への問合せなども行い、厳正に審査を行いました。

その結果、申請をいただいた8つの活動に助成を認めることになりました。しかし、いくつかの申請に対しては減額や条件を付すことになりました。急な計画変更を余儀なくされ、限られた時間の中で申請書を作成されたご苦勞を思えば、心苦しいところですが、このような大変な時期であればなおさら、明確で妥当な事業内容、予算であることを求めました。

どうか採択された団体におかれましては、その活動に市民から期待がかけられていると同時に、厳しい目が注がれるということを自覚し、緊張感をもって事業を進めていただければと思います。

また、今回は申請を断念せざるをえなかった団体におかれましては、今後さまざまな変化が予想されるアフター・コロナの社会における活動のあり方などを、みなさんで話し合い、考えていただき、来年度あるいは近い将来、このまちづくり活動助成金を活用され、活動に取り組まれることを願ってやみません。